2026 年度　歴史・考古学メジャー　日本近世史(添田)ゼミ合宿

小津久足の足跡をたどる旅

2026 年 9 月 16 日(水)～18 日(金)、日本近世史ゼミ(メジャー専門ゼミナール)では、宮城県多賀城市・石巻市・松島町においてゼミ合宿を実施した。授業では、江戸時代の商人である小津久足が記した『陸奥日記』を講読しており、本合宿では、久足が実際に訪れた松島町を中心に、現地を散策した。実際に現地に足を運ぶことによって、『陸奥日記』に描かれた江戸時代の景観と現在の様子を比較し、当時の面影を体感しながら久足が生きた時代を追体験することを目的とした。ゼミ生 5 人が参加し、このうち 3 年生 4 名は「慶長遣欧使節団と支倉常長」「石巻の「開港」と川村孫兵衛重吉」「仙台藩伊達家と松島」「東日本大震災と松島・石巻」といったテーマについて事前に調査してパンフレットにまとめ、参加者は適宜これを参照しながら現地を歩いた。

9 月 16 日は国府多賀城駅に集合し、多賀城市の東北歴史博物館を訪れ、学芸員の塩田氏から企画展「塩竈・松島－歴史・ひと・美術－」の解説を受けた。常設展では、東北全体の歴史が通史的に展開されており、音声解説などを取り入れた体験型の展示が印象的だった。企画展では、塩竈・松島の景観が描かれた屏風や絵画をはじめとした美術作品や瑞巌寺の由緒を伝える寺碑など貴重な資料を鑑賞した。塩田氏の丁寧な解説を通して、松島の歴史や文化について理解を深めることができた。

その後宮戸島へ移動し、宿泊した。









同 17 日は、石巻市の震災関連施設や、慶長遣欧使節ミュージアム(サン・ファン館)、石巻市立博物館、大川小学校跡などを訪れた。日和山公園や震災伝承館、大川小学校跡では、東日本大震災による津波被害の大きさを目の当たりにし、その経験や記憶、教訓を後世へ伝えていくことの重要性とその難しさを実感した。また、サン・ファン館では学芸員の中澤氏の解説を受けながら、慶長遣欧使節について学んだ。館外には、4 分の 1 スケールの復元船が展示されておりとても迫力があった。帆船の建造工程や、船内での生活の様子を再現した展示を通して、実際の航海の様子について理解することができた。石巻市博物館では、泉田邦彦氏の解説のもと、石巻市の歴史について学んだ。特に板碑について熱いご解説を受け、板碑は、全国で約 7 万基が確認されており、宮城県内では 7000 基、そのうち石巻市には 2000 基以上あるということを学んだ。このことから、石巻地域において板碑文化が広く受容されていたことがうかがえた。各施設の見学後は、宮戸島の宿に戻り、宿泊した。











同 18 日は、松島町に移動し、松島町教育委員会の泉田成美氏から解説を受けながら、雄島や瑞巌寺、五大堂を散策した。『陸奥日記』で登場した松吟庵跡や句碑なども実際に訪れ、小津久足が見た景色を体感することができた。瑞巌寺では、本堂を拝観し、畳が一段高くなっているところが藩主御成の間であることなどを学んだ。
そして宝物館では、国や県の文化財に指定された貴重な資料を鑑賞した。さらに伊達政宗甲冑像について、政宗の遺言により右眼は眼帯ではなく開かれた姿で表現されていることを知った。最後に遊覧船に乗り、松島の雄大な島々を鑑賞した。
学生一同、後援会の皆様のご支援に深く感謝いたします。







